

本日は興味深い講義ありがとうございました。先生の著書である「疫病と人類」と合わせて、今までなんとなく通り過ぎてしまっていた疫病、感染症の歴史を振り返ることができ、人類がどのように疫病に対応し、知見を積み重ねた上で、COVID-19に対応しているのか考えさせられました。「疫病と人類」と先生の授業のどちらも、社会のあり方に応じて感染症の影響とその結果が大きく違ってくるということを述べていらっしゃいましたが、ディスカッションの中で発展途上国と先進国のデジタル化の浸透度による感染しやすさの違いなどが話題に上がった際に、時代ごとにそして国ごとに文化が違えば、それだけリスクも変わってくるのだなと実感することができました。改めまして、今回の講義ありがとうございました。

今回の講義を通して、パンデミックやワクチンに関わる問題を非常に多様な視点から捉えることの大切さに気づくことができました。COVID-19のような未知の感染症に直面したとき、私たちは恐怖からウイルスを根絶することのみが正しい選択であるかのように考えてしまうかも知れません。しかし、このパンデミックの背景にある社会発展の追求、そして、過去の感染症がもたらした社会の変化に目を向け、社会や自然界との関連でパンデミックを捉えたとき、単にウイルスと戦うのではなく、被害を最小限にとどめながら共存の道を模索することの重要性を理解することができました。

一方で、社会全体を見ることによって覆い隠されてしまうかもしれない個人の価値観や違いに注目することの大切さも、再認識することができました。「数値の上では小さいとされるワクチンの副反応であっても、それを経験する人にとっては100パーセントのリスクであり、そうした一人一人の物語に寄り添わなければならない」という先生のお言葉は、様々な危機の現場で人々と向き合うご経験を積まれてきたからこそその説得力があり、とても強く心に響きました。

後半で、途上国と先進国の政策立案者の立場に分かれてワクチン3回目接種の是非を議論した際には、一国の中でも一般の市民と政策立案者の視点はどう異なるのかといったポイントに目を向けながら、有意義な話し合いをすることができたと感じています。今回学んだ多様な視点を今後大切にしながら、私たちが社会の一員として、そして、個人として、パンデミックやワクチンの問題とどのように向き合っていけるのか、考え続けていきたいです。

The lecture by Professor Yamamoto was highly engaging in how he tackled both the biomedical aspects and the societal side of the COVID-19 pandemic. Coming from a humanities background (the typical *bunkei* student, as you might put it), I was at first slightly skeptical of whether I will be able to understand the lecture and contribute to the discussion. Nonetheless, the lecture had a good balance of the medical and societal aspects, and it was no doubt engaging for us all.

In fact, Professor Yamamoto's lecture was highly interesting because of the fact that he undertook his lecture about COVID-19 in relation to the science/disease viewpoint. As I mentioned earlier, I am a humanities student but after listening to his lecture I understood the need to first comprehend the mechanics and biological aspects of the virus before we can make judgements about how we should therefore act within society.

Overall, I think it was a great time that we had with Professor Yamamoto. To be honest, it would have been great if we had more time for discussion because there really is a lot to talk about the COVID-19 pandemic...!

Thank you very much to Professor Yamamoto for this wonderful yet informative class, and I am more than certain that I would be able to use the knowledge gained for great use!

Tengis:

- I extremely appreciate how Professor Yamamoto has shared his real-life experiences working in many countries including Japan, Haiti, and Zimbabwe. His story was truly inspiring for young students like me because he gave us a clear image of the situation in the actual spots, what people needed and what he did in order to contribute to solving disease outbreaks, natural disasters etc.
- Also, today's lecture was a great opportunity to learn the history of infectious diseases and why disease outbreaks happen. For me, understanding the importance of relationship between human society and animal society to prevent diseases from animals to humans was the biggest lesson.

先生の授業の前には、先生の著作『疫病と人類』を事前に読んだ。内容が充実しかつ読みやすい本であったが、感染症に対する人類の応答が歴史を超えて繰り返されることを強く感じた。授業の中で紹介はなかったが、とりわけ本の中では、フォード政権時に感染症の拡大を予測して大規模な予算投入やワクチン開発を進めたものの、結果として感染症の拡大は見られず、むしろワクチンの副反応による症状が問題となったケースが大変印書的だった。得体の知れない病原体に対して、専門的知識を持たない私たちが過度に恐れ弄ばれてしまう好例であったように感じた。

授業の前半では、やはりトレンドにある新型コロナウイルス感染症に関する講義が個人的にはハイライトだった。コロナとの「戦闘」を訴える政治家に対し、冷静に状況を俯瞰して共生の道を歩むべきであるという先生の講義には説得力があった。やはり文系の人間としては、自然科学的な分析が非常に重要であることを認識させられた。ウイルスの側に立った時、宿主が存続することが重要なのであるから、ウイルス側も宿主である人類の根絶など目指しているはずがない。先生の講義を受けたことで、政治家による「戦闘」の訴えと共闘への誘いは、冷静な分析をすることができない人類が恐怖に蹂躪されているさまを皮肉にも象徴しているように見えてしまった。やはりこのパンデミックはパンデミックである以上に、人間社会が危機に直面した時にどういったところで綻びが生じてしまうのかを明るみに出す一つの人類史の中でのきっかけであるように感じられた。

授業の後半では、学生同士でディベートを行った。先進国と発展途上国いずれかの政治指導者に自分が立つと仮定し、ワクチンの三回目の接種を訴える先進国側に対して未だ一回目の接種がすんでいない発展途上国、いずれにワクチンの供給を回すべきか、という議論であった。私は他の学生 4 名とともに発展途上国側に回ったが、①倫理の見地から平等を達成すべきであること、②公衆衛生的見地では先進国がテレワークやオンライン授業の環境が整備されている一方で、発展途上国ではそういった環境が整備されておらず、相対的に物理的な接触の確率が高いこと③その他科学的見地での意見、が交わされた。個人的には②の公衆衛生的見地が興味深かったが、先進国側の立場に立った時の意見も興味深かった。